

# 障害者歯科学

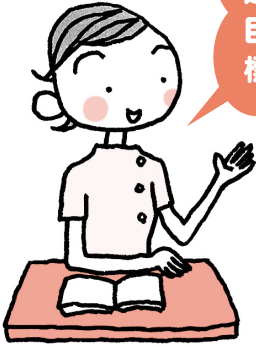
一般社団法人  
全国歯科衛生士教育協議会 監修

# 1 章

## 障害の概念

### 到達目標

- ① スペシャルニーズおよび障害者の概念を説明できる。
- ② ICF について説明できる。
- ③ 障害の受容、リハビリテーションと QOL が説明できる。
- ④ ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。
- ⑤ 障害のある人と福祉制度について説明できる。



## 1— 歯科医療におけるスペシャルニーズ

われわれが生活する現代社会では、盲（もう）や聾（ろう）、肢体不自由や知的障害に加えて、精神障害や内部障害のある人、さらには発達障害のある人など、特別な配慮と対応を必要とする人たち（スペシャルニーズのある人たち）が多くなってきている。

歯科衛生士には、心や身体、生活と環境の面にみられるスペシャルニーズを理解すること、そして保健、医療の専門職種として、そのニーズに適切に対応（スペシャルケア）できる資質がこれまで以上に求められている。

### 1. 障害者とは

国際連合総会決議（1975.12.9）では、障害者とは「先天的か否かにかかわらず身体的または精神的能力の障害のために、通常の個人的生活ならびに社会生活に必要なことを自分自身では、完全にまたは部分的にできない人」と定義している。

わが国では、障害者は「障害者基本法」で「障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」と定義されている。これは、障害者が受ける制限は、機能障害によって生じるだけでなく、社会におけるさまざまな障壁と相対することによっても生じるという、いわゆる「社会モデル」の考え方を踏まえたものになっている。「障害者基本法」における「障害」の範囲については、発達障害や難病などによる障害も含まれることを明確にするため、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）そ

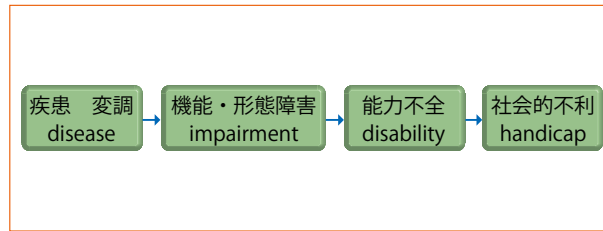


図 1-1 ICDH (1980 年)

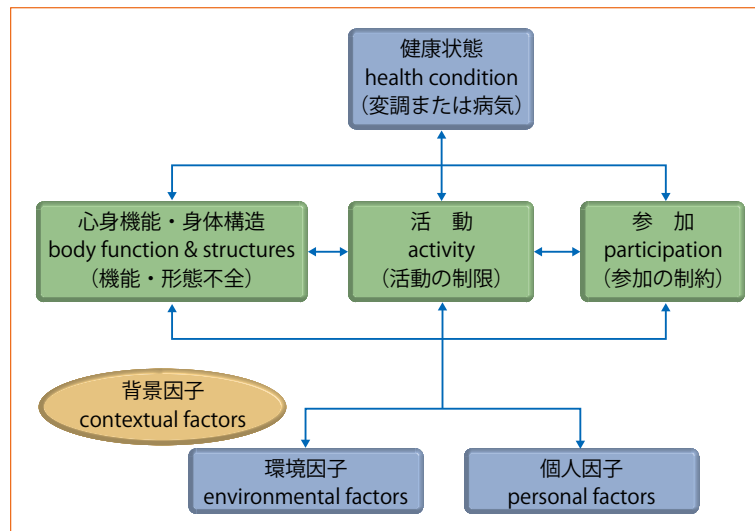


図 1-2 ICF (ICIDH 改訂版) の生活機能・障害構造モデル (2001 年)

## ②活 動

活動とは生活行為，すなわち生活上の目的をもった一連の動作からなる具体的な行為のことである。生きていくために必要な，歩く，洗顔，食事，歯磨きなどの行為に加え，社会生活上必要な行為も含まれる。活動には現在できることと，リハビリテーションの実施や補助具などを使用して行っていることに分けられる。

## ③参 加

地域の活動への参加や政治活動への参加など，広い概念の社会参加を意味する。

## (2) 背景因子

ICF のもう一つの特徴は，生活機能に大きな影響を与える背景因子として，環境因子と個人因子の2つを導入したことである。

### ①環境因子

環境因子には，個人の周りにある建築物，道路，交通機関や福祉用具（杖，義肢装具，車椅子）などの物的因子と，家族，友人，仲間などの人や社会的な意識を含む人的因子がある。環境因子は非常に幅広くとらえられる。

### ②個人因子

個人因子は，その人に固有の特徴であり，これには人種，性別，年齢や生育歴，

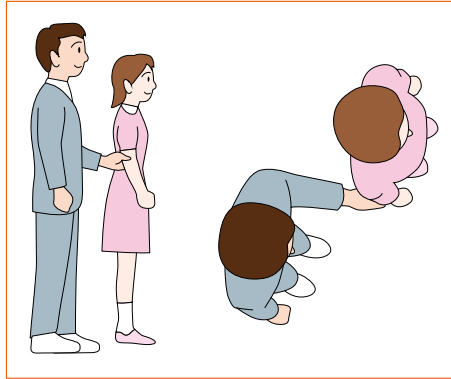


図 3-1 視覚障害のある人の誘導方法

視覚障害のある人が左手で誘導者の右腕の肩か肘のあたりをつかみ、2人が同じ方向を向いて、誘導者が半歩前を歩く。

表 3-1 聴覚障害のある人との主なコミュニケーション法

方法	特徴	配慮する点
補聴器	音声を増幅する	静かな環境を設定する。音声認識には個人差がある。
筆談	紙などに文字を書く	丁寧に書く。日本語の読解が苦手な人もいる。
手話	視覚を利用した言語	できれば手話を覚え、直接コミュニケーションする。重要な話は手話通訳者を活用して確実に行う。
口話	読唇と発語	簡単な指示に使用する。10分が限界である。

も念頭に置いて対応する（表 3-1）。

#### ①補聴機器（補聴器や人工内耳など）

補聴器は雑音も増幅してしまうため、静かな環境で話しかけるように配慮する。聴力の程度に左右差があるときは、よく聴こえるほうから話しかける。歯科治療中は器械音が出るので、患者に補聴器の音量を調節してもらう。

#### ②筆 談

手話を用いない中途失聴者や難聴者で多く用いられる。聾啞（ろうあ）者は音声言語を獲得していないため、表音文字である平仮名が多い文は理解しにくいことがある。

#### ③手話、指文字

手話は手や腕の形、位置、動きに表情を加え、体で表現する視覚的な言語である。聴覚障害者の約 20%が使用している。聾啞（ろうあ）者にとっては一番自然なコミュニケーションのため、歯科でも手話を通じると、患者に安心感を与える（図 3-2）。手話通訳者を介するときも、聴覚障害者のほうを見て話すようにする。

指文字は手指の形や動きで「あ」「ば」「ぱ」など一字を表す。音声言語に比べて語彙の少ない手話を補う形で使われることが多い。

#### ④読話（読唇）と口話

音声言語を用い、話し手の唇の動きや口の形から言葉を読み取る読話（読唇）とそれに加え、自分でも発語する口話がある。読話は、言葉が判別しにくかったり、

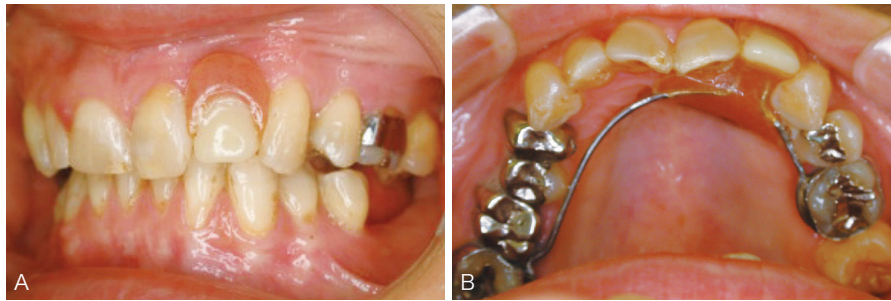


図6-2 成人てんかん患者に装着した半固定性保隙装置

A: てんかん発作による転倒で上顎左側側切歯が破折したため、欠損部位に半固定性保隙装置を装着した状態。B: 同咬合面からみた半固定性保隙装置の全体像。

病的姿勢反射や摂食時の異常パターン（舌突出、咬反射など）、てんかん発作による転倒などの外傷により、歯の欠損が認められることがある。この場合、患者の協力性や病態によって異なるが、一般的には義歯や保隙装置の装着などの歯科処置が必要となる（図6-2）。

#### (4) 通所施設やグループホームの職員への対応

施設などの職員に対しては、利用者の疾患や障害の程度に合わせ、義歯の取り扱いを含む口腔のケアの指導や、医療機関への定期的受診の勧めなどが重要である。

#### (5) その他

老年期になると、窒息事故や低栄養による褥瘡<sup>じよくそう</sup>や脱水、食べる意欲の低下などがしばしば認められ、口腔のケアをはじめとして、包括的な口腔管理が必要となる。

終末期においては、口腔乾燥や口渇、口内炎、口腔カンジダ症などや口腔内疼痛除去への歯科的対応、最後まで口から食べるという人間の尊厳を守るためにも、適切な口腔管理が大切である。

## 3 摂食嚥下障害と栄養管理

栄養は成長発育や心身の発達、健康の維持増進、情緒・心理面の安定、体調・体力への影響、疾病の予防や回復力、生活習慣病の予防など、QOLを維持・向上するために重要である。一方、摂食嚥下障害を合併する障害児（特に重症心身障害児）では、低体重や脱水、ミネラル不足による成長障害や心身の発達障害、反復する誤嚥性肺炎や疾病、覚醒・睡眠障害、嘔吐、湿疹などによって、QOLの低下を招きやすい。

また、成人期から高齢期の種々の原因で摂食嚥下機能に障害のある人においては、栄養障害や脱水による体重減少や褥瘡の出現、気力や意欲の低下、体力・回復力の低下、日常生活機能の低下、体調変移、リハビリテーション効果の停滞など、身体面、生理面、心理面、生活面などのさまざまな場面において影響を受ける。



厚生労働省から「日本人の食事摂取基準」が発表されていますので参照してみてください。五大栄養素とは、糖質（炭水化物）、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラルのことです。



## 事例 1

# 脳性麻痺（アテトーゼ型）患者

### 歯科衛生 アセスメント

#### ■患者概要

40歳，女性，脳性麻痺（アテトーゼ型）

#### ■主 訴

S：歯が動き，むし歯や歯ぐきが気になる。うまく歯磨きができなくなってきた。

#### ■歯科的既往歴

O：約20年前に全身麻酔下で補綴処置ならびに歯周治療を受ける。最終来院日は3年前。

#### ■全身状態

O：知的障害はなし。全身に筋緊張と不随意運動が認められ，30歳頃から全身の筋緊張が強くなり頸椎症となる。3回にわたり頸部の手術をしている。

O：常用薬：筋弛緩薬を含め，計7種類（ダントリウム<sup>®</sup>，テルネリン<sup>®</sup>，セルシン<sup>®</sup>，ミルタックス<sup>®</sup>，フェロミア<sup>®</sup>，タケプロン<sup>®</sup>，ロキソニン<sup>®</sup>）の薬を服用。

#### ■社会・心理・行動

S：「婦人科の医師から更年期症状が現れている」と指摘され，将来に対して不安をもらす。

S：「筋肉が衰え，腕が上がりにくくなり，うまく歯磨きができなくなっている。歯も動き，総入れ歯になってしまうのではないかと不安」。

S：歯科治療への不安がある。

O：仕事もち，1人で自立した生活を送っている。

#### ■口腔内所見

O：図8-2，3

#### ■口腔清掃

S：朝食後と就寝前の1日2回のブラッシング習慣が確立している。

S：歯間ブラシは週1回使っているが，うまく使えなくなってきた。

S：歯磨剤はときどき少量使用する。

O：右利きで，歯ブラシは柄を太く改良したものを使用している（図8-4）。

O：ストロークは大きく，左手で動きを抑えながら磨く。特定の部位しか磨けていない。

O：PCR 100%

### 分析・解釈

- ・加齢とともに筋緊張や不随意運動が増強し，さらに更年期症状も現れはじめ，健康や将来に対する不安が高まっているのではないかと。また，一人暮らしのため，悩みを打ち明ける場がなく，不安を増長させているのではないかと。